

せいけん  
詩集

第十七篇

作：近藤せいけん

# 「なつかしき昭和」

私の幼き頃

学校から帰ると

家に着くなり ランドセルを

放り投げ 皆の待つ

いつもの路上の遊び場に

ベイゴマ かん蹴り メンコ

暗くなるまで、外遊び

カン、カンと、拍子木が鳴る

子供が集まる

黄金バットの紙芝居

水あめ

夏祭りの太鼓 山車 御みこし

幼き日々 走馬灯が巡る

はるかなる

はるかなる

なつかしき 昭和



# 「二十一世紀後半」

私は二十一世紀後半を

見ることは出来ない

どんな後半なのか

見てみたい

私の幼い孫たちはきっと

そこにいるに違いない

孫たちのこれから生まれくる

子供たちの世紀

私は その街角に

立つことは出来ないが

今 祈ることは出来る

幸せに満ちた 世紀であれと

人は空気を吸わなければ

生きてゆけない

水 作物 この星のあらゆる

生き物と仲良くしなければ

生きつづけて ゆけない

科学 技術の進歩も大事

しかし もっと大切なもの

この地球という星 忘れないでほしい



# 「かつば音頭」

ハアー 相模の国にはヨオー

お国自慢の かつばの村

ゴザレ ゴザレ 相模の国に

お国自慢の 相模川 中津川 小鮎川

三流

ゴザレ ゴザレ かつば村

ハアー かつば村にはヨー

太郎かつばが住むとナアー

ゴザレ ゴザレ かつば村

ハアー 踊り踊るならヨオー

かつばの音頭

心も身体も 軽くなる

ヨイアサー ヨイアサー チョイ

チョイ チョーイ

ゴザレ ゴザレ かつば村

チョイ チョーイ



# 「かっぱサンバ」

熱い 熱い 思い

届け 響け

サンバ サンバ サンバ

オー オー オー

かっぱ かっぱ

かっぱサンバ

幸せなら かっぱ

かっぱサンバ

サンバ サンバ サンバ

オー オー オー

かっぱ かっぱ

かっぱサンバ

輪になって 輪になって

ソーレ ソーレ

手を叩け 足を踏みならせ

オー オー オー

かっぱ かっぱ

かっぱサンバ

